



“The Greenest City”

SENDAI

仙台市の脱炭素都市づくり

～ 109万市民の「日常」を脱炭素化～

仙台市副市長 高橋 新悦

1 仙台市について

“The Greenest City” SENDAI

市の基本情報

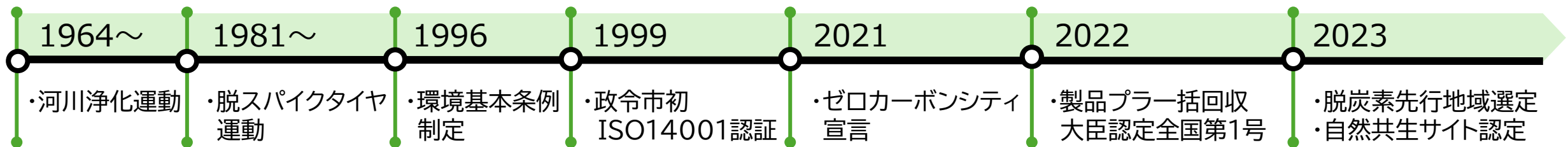
- 人口 約109万人
- 面積 約786.3km²(森林面積約57%)
- 事業所数 約47,300カ所

まちづくりの理念

挑戦を続ける、新たな杜の都へ
～ “The Greenest City” SENDAI ～



環境政策における主な歩み



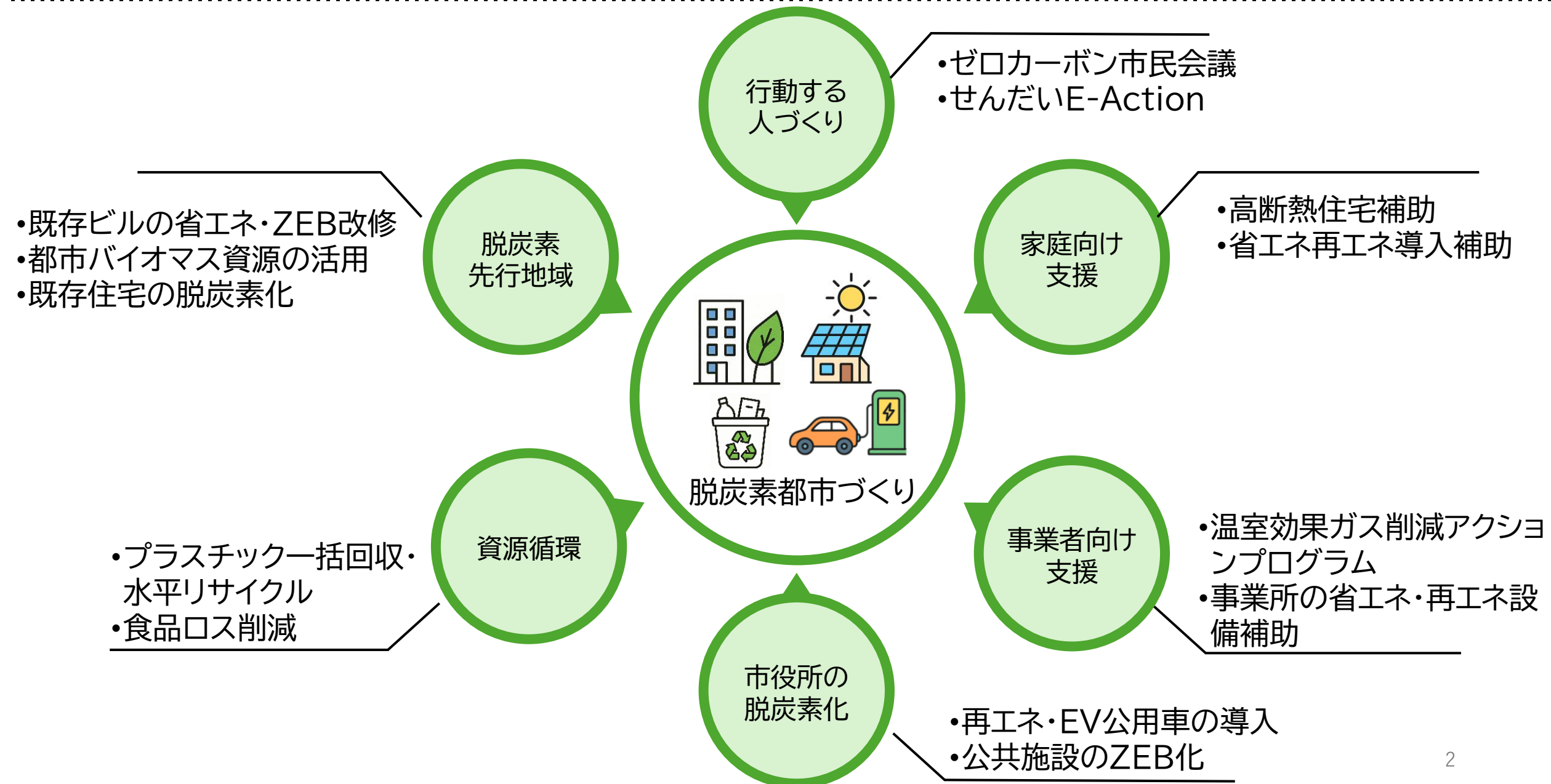
2011～ 東日本大震災の発災から復興へ

温室効果ガス排出削減目標

2030年
マイナス55% *Green*



2050年
実質ゼロ *Greenest!*

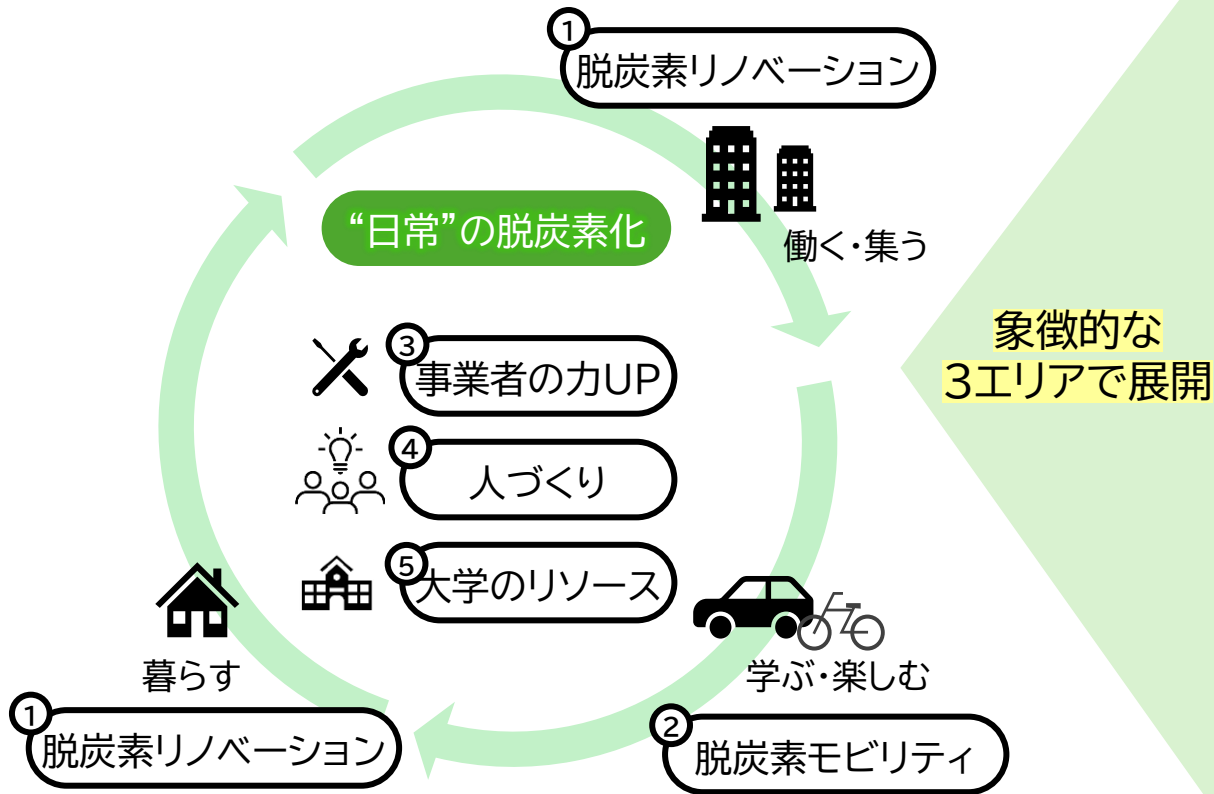


3 脱炭素先行地域 取り組みの全体像

“The Greenest City” SENDAI

取り組みの方向性

- 2050年ゼロカーボン社会に向けて、109万都市・仙台の日常を脱炭素化
- 2030年以降を見据え、市民の意識醸成と地元事業者の技術力・競争力向上を図る



1. 定禅寺通エリア

- 業務ビルの脱炭素リノベーション、ZEB改修見学会
- 「都市バイオマス資源」の活用

2. 泉パークタウンエリア

- 住宅の脱炭素リノベーション
- 高度なエネルギーマネジメントの展開
- 地元工務店連携のリノベ体験会等の開催

3. 東部沿岸エリア(津波被災エリア)

- EVカーシェアなどの脱炭素モビリティ
- 防災・環境技術の実証
- 観光施設等に再エネを最大限導入

4. エリア共通

- 地産地消の再エネ電力メニュー新設
- 市民の行動変容を促進
- 市営バス、ごみ収集車、トラックなど運輸部門の脱炭素化

課題・背景、取り組みの概要

- 定禅寺通には、個人のビルオーナーが所有する中小テナントビルが多く、老朽化が進んでいる
- 道路や公園の再整備が予定されており、周辺エリアを含む新しいまちづくりの機運が高まる



既存ビルの省エネ・ZEB改修により、
サステナブルで魅力的な空間を創出する

先進性・モデル性

- 中小規模の“雑居ビル”の脱炭素化は、テナントとの調整などハードルが高いが、ゼロカーボン社会の実現に向け、極めて重要と位置づけ
- 営業を止めない「使いながら改修」や、地域団体・民間事業者等によるサポート体制で取り組みを推進。そのプロセスも含め、他都市に展開できるモデルを創出する



定禅寺通の景観



使いながら改修(休業日の作業)



ZEB化に取り組むビル

4 特徴的な取り組み ②都市バイオマス資源の活用

“The Greenest City” SENDAI

課題・背景、取り組みの概要

- 定禅寺通では、早朝にカラスが事業ごみを荒らし、長年の課題となっている
- 「杜の都・仙台」を象徴するケヤキの街路樹も剪定後は再利用されず焼却処理

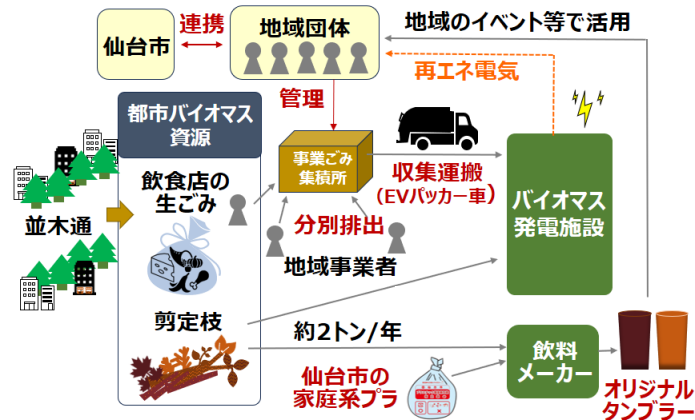


飲食店の生ごみを分別収集し、
バイオマス燃料として活用

ケヤキの剪定枝と家庭等から収集したプラスチック資源を原料にオリジナルグッズを制作

先進性・モデル性

- 太陽光パネルの設置が難しい都心部における再エネ創出、資源循環・サーキュラーエコノミーの推進
- 市民や事業者の行動変容を促進し、景観の改善や地域のブランド力を向上
⇒ビルの脱炭素化と合わせて取組み、全国に展開できるサステナブルなまちづくりのモデルを創出



取組み全体イメージ



R6年度制作
定禅寺通オリジナルタンブラー



R7年度制作
ガンザ(振って音を出す打楽器)

5 今後に向けて

“The Greenest City” SENDAI

今後の予定

- 家庭・事業者向けの取り組みのさらなる強化
- 公共施設のZEB化の推進
- 脱炭素先行地域の取り組みを市内へ水平展開
- 市内における新築建築物への太陽光発電等義務化の検討

市民、事業者、教育機関、金融機関など、
市域の様々な主体と協働しながら
2050年ゼロカーボン達成に向けて取り組みを加速

